

## 安城ロータリークラブ



# 週報

【 No.555 2012/8 第1例会 】

例会日: 毎週金曜日

例会場: 碧海信用金庫本店 3F  
安城市御幸本町 15-1

TEL: 0566-75-8866

FAX: 0566-74-5678

Email: [anjo-rc19580206@katch.ne.jp](mailto:anjo-rc19580206@katch.ne.jp)

HP: <http://www.anjo-rc.org>

## 第 2696 回例会

2012年8月2日(金) 12:30~13:30

司会者: 加藤 英明君

ソング: 「君が代」、「奉仕の理想」

卓上花: ヒマワリルプレ

ゲスト: 特定非営利活動法人地球温暖化対策地域協議会

エコネット安城事務局長 神谷輝幸 様

ビジター: なし

2012-2013 年度 RI テーマ:

Peace Through Service 「奉仕を通じて 平和を」

クラブテーマ:

親睦から奉仕へ。そして奉仕を通じて平和を。

■会長: 大見 宏

■幹事: 石川 義典

■クラブ会報: 成田孝則・松本隆利・青山竜也

■創立日: S33年1月10日

■RI 加盟認証日: S33年2月6日



## ■会長挨拶

大見宏 会長

### 《地区大会まであと85日》

#### ●会長報告

7月27日 歴代会長会議 指名委員会 委員長: 竹内通裕君 委員: 加藤弘君 石原昭君 大見宏君 都築雅人君

7月30日 地区大会実行委員会 総決起懇親会 於「つき山」

「地区大会 真夏の宴 いざ出陣」(深芳)

#### ●同好会情報

7月29日 観劇同好会 桂文枝襲名披露公演 於 御園座

8月11日 ランチ同好会 於 うなぎ「やま平」



### 《ロータリー豆知識その②》

#### <地区大会とは>

・朋友との交流、感銘深い講演、地区内クラブやR I 全般に関する問題の討議によってロータリーのプログラムを推進することを目的として、ガバナーと地区内クラブ過半数の会長の合意により定められる時及び場所において毎年開催される大会

#### <地区大会の要件>

～地区大会は次のことを行わなければならない～

- 1 RI会長代理に少なくとも2回は大会で講演する機会を 用意する。この2回のうち1回は、配偶者を含める最多数の出席者を見込める大会会議で20-25分間主要な 講演をすることである。これら2回の主要講演に加えて大会の終わりにホスト地区に感謝の意を表すことのできる機会を用意する。
- 2 前ロータリー年度の監査済みの財務報告を討議し、採択する。
- 3 規定審議会の2年前のロータリー年度の地区大会では地区の規定審議会代表議員を選出する。
- 4 地区大会の前に地区協議会で地区の賦課金が承認されていない場合は、承認する。
- 5 適切であれば、RI理事の指名委員会委員を選任する。

## ＜優れた地区大会の12原則＞

RI理事会は、地区大会を成功させるためにガバナーが次のことを行うものと確信する。

- 1 地区大会の立案、組織、運営に十分参加すること。
- 2 定刻に開始終了する総合的かつバランスのとれたプログラムで、ロータリーに関係のあることや、地元の関心の高い問題について斬新で意欲をかき立てるような講演を含むプログラムを開発すること。
- 3 会長代理は、地区大会中、会長と同じ立場にあり、配偶者を含め最多数の出席者を見込める大会会議で20～25分間主要な講演をする機会を用意しなければならないと認識すること。また、開会と閉会に会長代理がロータリーの現況報告と閉会の辞を述べる機会も必ず用意しなければならない。
- 4 会期は最小限2日間、最大限3日間の大会を立案し、明確にロータリーを内容とする本会議とグループ討論に少なくとも9時間を充てる計画を立てること。例えば、ロータリアンでない講演者がプログラムに登場する場合には、講演の主題をロータリー綱領に直接関連させるよう努めなければならない。
- 5 効果的に勧誘し、他の行事と日時が重ならないようにし、費用は妥当な額にして、地区内のできるだけ多くのロータリアンが参加できるよう目指すこと。
- 6 大会プログラムの中に地区内全クラブの代表者に参加させることによって、全員無参加のクラブが一つもないよう注意すること。
- 7 配偶者やその他のための行事の時間と本会議の時間を調整して、あらゆる登録者が本会議に出席できるよう配慮すること。
- 8 グループ討論にできるだけ多くの人の参加を求めること。
- 9 新ロータリアン、初めて出席する人、クラブ会長、会長エレクトと見分けられるよう何らかの方法を予め講じること。
- 10 事前登録を奨励しながら、次期地区大会を推進する会議を開催すること。
- 11 地区大会前、大会中、大会後も入念に計画した広報活動をして、報道機関を含め、地元地域社会の参加を奨励すること。
- 12 地区中の多くのロータリアンにできるだけ任務を割り振ること。

## ＜地区大会のための推奨事項＞

- 1 最大限の出席を達成するために、費用を適当な額にする。
- 2 会期は2日以下であってはならず、3日を超えないようにする。
- 3 多くの会員の参加を高めるため、討論グループを含める。
- 4 ロータリー及びロータリー財団に関する内容に重点をおいた均衡のとれたプログラムを含める。
- 5 地区の決議事項を検討する。
- 6 適切であれば、新しいロータリアン、地区大会に初めて出席するロータリアン、クラブ会長その他の人に特に歓迎の意を表す
- 7 ロータリー及びロータリー財団の活動をしたことのある人々を、最大限にボランティアとして起用する。
- 8 次回の地区大会を推進し、事前登録を奨励する。
- 9 地区大会と祝日、配偶者の行事やその他の行事が重ならないよう日程を調整し、登録者全員が出席するよう奨励する。
- 10 「友愛の広場」などでクラブや地区のプロジェクト展示を行うよう奨励する。
- 11 RI会長代理の経歴を見分け、適宜、討論やその他のセッションに関与してもらう。
- 12 新しいロータリアンのために特別オリエンテーションを提供する。
- 13 クラブ会長を務めた、あるいはクラブで指導的な役割を3年以上務めた関心を持つロータリアンのため、地区大会の直前、直後に丸1日を充てた地区指導者育成セミナーを含める。

- \* 本日例会終了後理事会を行います。
- \* 8/24(金)親睦活動クラブフォーラムは会場を川本に移動して行います。準備の都合上8/10(金)までに登録ください。当日は碧信の駐車場をご利用ください。
- \* ゴルフ部会 9/13(木)トラデションゴルフクラブにて第2回安城ゴルフ部会コンペを行います。
- \* 地区大会出席確認表を本日中にお出してください。
- \* 事務局8/13.14.17お休みです。ご用の方は石川幹事まで連絡お願いいたします。
- \* 先週の七夕親善大使との写真ができております。

## ■ 9月のクラブ内例会・委員会予定

### 【9月のクラブ内例会・委員会予定】

- 7日 ロータリー情報委員会 インニエーションスピーチ  
 福田雅美君 外山勝美君 小野田真代さん 奥嶋正衛君 加藤英明君 亀島深里さん  
 \* 定例理事会
- 14日 クラブフォーラム新世代委員会 安城学園IAC来訪 海外研修報告  
 \* 地区大会実行委員会
- 21日 卓話担当 小野田真代さん  
 \* 地区大会実行委員会
- 28日 ガバナー補佐訪問  
 ガバナー補佐 加藤良邦(かとう りょうほう)碧南RC  
 分区幹事 亀山裕一(かめやま ゆういち)碧南 RC  
 地区副幹事 野田剛司(のだ たけし)名古屋東RC  
 \* 第2回クラブアッセンブリー



## ■ 出席報告

小野田真代君

会員	59名
出席義務者	48名
出席	36名
欠席	12名
出席免除者の出席	10名
出席率	78.18%
修正出席率	7月20日 第2694回 94.82%

## ■ ニコボックス報告

神谷明文君

本日のニコボックスメッセージの紹介



### ★ 会員誕生日祝

新田高広君(8/5) 寺田孝司君(8/8) 加藤 弘君(8/10) 深津正則君(8/13) 奥嶋正衛君(8/15)

竹内通裕君(8/24) 清水正幸君(8/24) 恒川憲一君(8/24) 加賀昭成君(8/26) 奥田法行君(8/26)

### ★ 夫人誕生日祝

青山知子(ともこ)様(8/6) 石原まさ子様(8/26) 野村晃代(てるよ)様(8/27)

鈴木公江(きみえ)様(8/29) 杉本千恵子(ちえこ)様(8/30)

★ 結婚記念日祝 鳥居博行・佳代(かよ)ご夫妻(8/25)

★ 還暦祝 恒川憲一君



## ■ 卓話

卓話者: 特定非営利活動法人地球温暖化対策地域協議会

エコネットあんじょう事務局長 神谷輝幸様

テーマ: 「なぜ矢作川水源の森トラストプロジェクトを始めるか」 ～水源の森保全の意味～



### 1、 私たちがこの運動に取り組む理由

○映像は矢作川上流の水源を流れるせせらぎです。最近「水源の森は都市の森」とか「森は海の恋人」とかのフレーズで都市や海も「水源の森」が大切であることが語られるようになりました。ところが日本の山は危機的状況にあり、このことを市民の皆さんに理解していただき、私たちの手で直ぐにでも何とかしなければならないという強い思いに至ったからです。

### 2、日本の森林の現状

○かつて奥山は広葉樹の保水力抜群の森があり、里山の人工林も手入れがされ豊かな生態系と水源の森が形成されていました。

○ところが現在、水源地である奥山は荒廃し、洪水・山崩れなど深刻な問題が起きています。左の映像は間伐が不十分な人工林、右が適正な間伐をした人工林です。ほとんどの人工林は左の状態で放置林と呼ばれています。

○日本の森林の40%はスギ・ヒノキの人工林です。うっそうと生い茂る人工林に一步入ると

○林床は暗く、間伐などの手入れがなされていない(30年生スギ林)。うず高くつもる落ち葉を除くと、根が露出しており、表土の流亡が見られます。

○手入れがされていない人工林に入って、雨の浸透する能力を調査したデータがあります。

○広葉樹を伐採しスギ・ヒノキの人工林にすると雨水の浸透能力は四分の一に激減します。

○このグラフから分かることは、保水力も針葉樹より広葉樹の方が優れているということです。

○浸透能力は適正に間伐すれば10年で自然林の80%まで回復していることを示しています。日本のほとんどの人工林は放置されたまま荒れており間伐が急がれる理由です。

○以上のほかに森には多様な機能があります。

### 3、山村からの人口流出

○根羽村の人口は現在1200名です。数年前は 1500 人でした。山村での仕事が減少し、若い人達が都会に出て、高齢者が死亡し人口が減少し続けています。

○山村からの人口流出・高齢化・国産材の需要が少ない状況の今、私たち下流域の住民が、水源地に目を向けなければならない時代です。

### 4、外国資本に狙われる日本の森林

○さらに、外国資本が日本の山(水源地)を購入する動きが不気味です。

○この動きに対して、自治体で水源の森を購入し市民の水確保に動き出したところもあります。外国人に国土を変われるとは由々しきことで、必ず将来に禍根を残すこととなります。警鐘を鳴らす意味でも自治体が山を購入する動きに注目すべきです。

### 5、水の確保に真剣だった安城の先人

○かつて安城が原と呼ばれた安城市は江戸時代に都築弥厚が明治用水を引いてから美田が生まれ日本のデンマークと呼ばれ発展してきました。

○また、安城市町長であった岡田菊次郎さんは「水を使うものは自ら水を作れ」と語りかけ、明治用水土地改良区が山を買い、水源の森として保全してきた歴史があります。

### 7、命の森づくりの提案

○私たちは、今後、手入れをしていない荒れた山は標高 800メートル以上は生態系豊かな自然林に戻し、800メートル以下は里山として人間が利用するという人間と動物たちが棲み分けをすることが大切だと考えています。

### 8、なぜ、根羽村を選んだか

○私たちが水の恩恵を受けている矢作川の源流の一つは根羽村にあります。トラスト候補地は標高 1100メートルから1200メートルあり、ブナ林の広葉樹に覆われ、水源の森として保全する価値のある生態系豊かな自然林の山です。

○なぜ、自然林を買い取り保全する必要があるのでしょうか。一つは、近年、日本の山が外国資本に買われる動きが頻繁におこり不気味です。根羽村の山も外国ファンドが物色に来ているという情報を聞いております。二つ目は、将来世界的な水不足による戦争が起きる可能性が指摘されています。「水を使うものが自ら水を作れ」というメッセージが新しい意味を持って迫ってきています。

○この水源地を市民の森として買い取り、永久に水源の森として保全したい旨を根羽村に伝えましたところ、村長さんはこのプロジェクトに大変前向きで、根羽村村有林約 36 町歩を提示されました。ここを市民で買い取り、「矢作川水源の森トラスト地」として永久に保全することを条件に同意書を交わすことができました。

○黄色の部分が分収育林、赤い部分がトラスト地です。この山を「市民の森・水源の森」として永久に保全するものです。小さな取組ですが全国で疲弊している山が復元されるようメッセージを発していきたいと思えます。

### 9、先人の遺志を継ぐ

○安城市は都築弥厚さんが矢作川から明治用水を引いてから日本のデンマークと呼ばれるほどに全国に名前が知れ渡るまでになりました。それ以来、水源の森を守る動きは、続いてきました。1915年、明治用水土地改良区が根羽村に森林を購入し、1991年には、安城市と根羽村が共同出資して、分収育林の契約を結んでいます。そのとき、安城市は契約金として、1億4千5百万円を根羽村に支払っています。(立ち木を営林署が伐採した場合に得られた利益相当額+地代として)その後も市民・企業が根羽村において植林活動をしてきました。戦後、開発や工場排水等で矢作川が白い川と呼ばれたことがあります。内藤連三さんなどの努力で1966年に矢作川沿岸水質保全対策協議会をつくり矢作川を清流に戻した取り組みは、「矢作川方式」呼ばれとして全国に誇るものです。「流域は一つ、運命共同体」という名言のもとにこの取り組みは成功を収めてきました。

○こうした歴史的な流れを受け継ぎ、私たちはこの事業を通して、これまでの根羽村と安城市はじめ、流域住民全体の交流を一層深め、絆を強める取り組みを進めるきっかけにしたいと思えます。11月3日には安城市・根羽村交流フォーラム開催し、多くの人に関心を持っていただけるよう呼びかかるとを計画しております。